

地域をどう元気にするか トキ鉄の鳥塚社長が議員勉強会で講演

各界から識者を呼んで学ぶ議員勉強会、今回は、えちごトキめき鉄道株社長の鳥塚亮さんの講演でした。

同社長の講演を聴くのは今回で2度目。テーマはひと言で言えば、「ローカル線で地域を元気にする方法」です。今回も面白く、いろんな意味で勉強になる内容でした。

「日本全国に通用する法則がある」として、人間の行動心理をクローズアップしてテーマに迫っていく鳥塚社長の話し方は見事でした。「都会の人は古いのが好き」「ガイドブックに載っていないところを探している人は10人に1人はいる」「子ども



のころ覚えて原風景は忘れない」など、くいくい引きつけられました。

その他、「素敵なポスターを撮った場所に行ってみたい人たちが大勢いる」「妙高でインスター一番人気の写真はご飯の上にイナゴをのせたもの」といった話を聴いて、ポスターや写真などについても考えさせられることがいくつもありました。

最後に言われた「高田で一番興味があるのは警女（こせ）さん。警女唄を聴いて、特等米を警女さんにさしだす。江戸時代から行われてきたというが、この地には相互扶助が根付いている」という話にはびっくりしました。まだ就任4か月なのに、この地域の歴史をよく存じだっただからです。

ただ、残念だったことが一つありました。「地域住民の足」としてのトキ鉄の課題と方針についての言及がなかったことです。この時期ですから、4月からの運賃引き上げ等についても少しは触れてほしかったですね。

新年祝ついで挨拶

吉川区の「新年を祝つ会」が18日、吉川多目的集会所で行われました。オープニングは琴と三味線の演奏。「ふるさと」など身近な曲を演奏してもらいました。

実行委員会を代表して吉川商工会長の吉田敏雄さんが挨拶。来賓として土橋副市長が、災害のことや東京



【セイヨウヒイラギ】再掲。モチノキ科の常緑小高木。漢字で「西洋柃」と書きます。別名は「クリスマスホーリー」。10年ほど前、高田の大町に「柃」という名前の料理屋さんがあり、何度か行ったことがありました。その店の近くに大町小学校がありました。セイヨウヒイラギは学校の玄関脇での出会いが初めてでした。花言葉は「将来の見通し」「神を信じます」など。写真は吉川区小苗代にて1月10日、撮影しました。



オリンピック、パラリンピックのことをあげながら、新年の抱負をのべました。

私は、昨年、上越市議会で初めて取り組んだ吉川中学生の模擬議会のエピソードを語り、頼もしい中学生たちのことを紹介しました。また、合併後15年を経過するなかで、改めて地域を重視する計画が必要だとし、総合計画の中に各区の長期計画を組み入れるべきだと訴えました。交流会では、今冬の少雪の影響、今後の地域づくりのことなどについて意見を交わすことができました。

感動の津軽三味線コンサート



小竹勇生山ファミリーによる津軽三味線コンサート（「夢をかなえる会」主催）が19日、吉川コミュニティプラザのホールで行われました。

全国一になった、みさみささんの三味線の演奏、すごかったですね。カ強さと優しさを併せ持ったバチさばきによってだされる音は私の胸にびんびんと伝わってきました。そして、栄子さんの張りのある民謡や警女唄も素敵でした。一番気に入ったのは岩室甚句、いまは七き父が好んで歌っていた曲の一つです。

勇生山ファミリーは糸魚川市能生を拠点に活動していますが、近くにこんなすごい人たちがいるなんて恵まれているなと思います。ねえ、おまん、そだねかね。

はしづめ法一の活動レポート

No.1944 2020.1.26

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五九二回 ショート帰りの母と

三泊四日のショートステイを終えて、母が家に帰ってきました。今回は家庭の事情で急な泊まりとなったことから、母がどんな顔をして戻ってくるか少し心配でした。スタッフからワゴン車で送ってもらって家に到着する予定時間は午後三時四十分から四時一五分の間。施設からはそういう連絡をもらっていましたが、家の前で母を待っている、花梨(かりん)の木の下の白いものが見えました。

何だろかと近づいてみたら、なんと、それは二ホンズイセンの花でした。普通の冬なら雪の下になっていきますから、花を見るのはずっとあとなんです。今年はまだ雪がないし、花も咲いたんですね。

車が到着したのは午後三時四十分頃でした。スタッフの〇さんから降りしてもらい、玄関へ。母は足取りもまずまずで、ショートに行った時とまったく変わりない表情で家に入りました。

コタツのそばの電動イスに座った母は、しばらく居間の四方の壁などを見上げていました。毛布などが干してあったので、いつもと違って見えたのでしよう。

「どうだったね」と声をかけると、

「デイサービスで、男がいないとダメどそってだけど、おらちはとちゃ、いるすけ、いかっこお」

ショートに入ったのは日曜日の夕方でした。その日は、風間は近くのデイサービスに行っていたのですが、そこで、誰かと話でもしたのでしょか。

「だれか知っている人に会ったかね」
「そう言っ母に尋ねたよ」

「原之町のとこやのおばあちゃんと一緒にあったよ。それから、山中の人とも一緒にあった」

と答えが返ってきました。私からは、

「知っているしよと一緒で良かったね」と言っただけですが、母は「うん」とひと言しゃべっただけで、テーブルの上にあったミカンを、ゆっくり食べ始めました。それも目をつむりながら……。

母は時どき、目をつむったり、開けたりしながら物を食べます。ミカンを食べている母を見ながら、また声をかけました。

「おまんね間にスイセン咲いと」
「外のスイセンの花か」

「うん。そうだよ。ほら、見てみない」
私の携帯の写真を見せると、目をしっかりと開けました。

「まあ、これ、おらんが、きれいなもんだない」
「……」

「こりゃ、そくそくっと咲くすけな、花いっぱい」
「おまん、おらちの庭にスイセンあるが知ってたかね」

「知ってたこてや。牛舎のそばの畑の長いところにもあるよ。ちよっこ小高いよ」

母がミカンを食べていた時、私は千葉からもらった落花生を食べていました。私が食べていた落花生に母の視線が向いたところで、話題を変えました。

「おまんも千葉の落花生、食べるかね」

「いま、いい。千葉のエツオちゃん、くんたがろ、カレンダーと一緒に」

「そだよ」
「中条の佐藤さんに、早くとらんと、タヌキに食べらんちやうよ、といわんだがど」

「なにね」
「落花生だこてや。牛舎のそばの畑で落花生植えたらいつなったがど……」

この時、母と話したのは正味一〇分くらいだったでしょう。でも、母と話した時は時間がゆっくり流れていく感じがしました。

どうあれ、母が元気で良かったです。

ニュースフラッシュ



もうネコヤナギが

吉川区原文町の万年堂旅館さんの裏道で19日、スイセンの花を撮りました。その際、「ひよっとすると、ネコヤナギも見られるかも」と吉川のほとりに行きました。思った通りでした。あまりにも早いのでびっくりです。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月15日(水)	1月22日(水)
上越南消防署	0.047	0.040
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.060	0.050
高士分遣所	0.043	0.050
名立分遣所	0.053	0.050

バスの待合室で

マルケーさんのバス営業所待合室にいいのが貼ってある。そういう情報を寄せていただき、柿崎の頸北観光バス(株)営業所の待合室へ行ってみました。

待合室の壁に貼ってあったのは、葬式の現場の体験をつづった『納棺夫日記』(文春文庫)の作者、青木新門さん(富山県入善町在住)の言葉でした。この言葉自体は、青木さんの詩集、『雪道』の中にあります。この言葉は他の営業所バス待合室でも貼ってあるとか。青木さんのことについては、映画『おくりびと』を観て初めて知ったのですが、『納棺夫日記』、『雪道』は人の生と死を見つめる目と心を豊かにしてくれます。この掲示者は安塚区の念仏道場、専敬寺さんです。

